

## 主日礼拝説教「祈りが迷走しないために」

日本基督教団石神井教会 2017年7月16日

### 【旧約聖書日課】歴代誌下 6章12～21節

<sup>12</sup>彼は、イスラエルの全衆の前で、主の祭壇の前に立ち、両手を伸ばした。<sup>13</sup>境内の中央に縦五アンマ、横五アンマ、高さ三アンマの青銅の台を造らせてあったので、ソロモンはその上に立ち、イスラエルの全衆の前でひざまずき、両手を天に伸ばして、<sup>14</sup>祈った。「イスラエルの神、主よ、天にも地にもあなたに並ぶ神はありません。心を尽くして御前を歩むあなたの僕たちに対して契約を守り、慈しみを注がれる神よ、<sup>15</sup>あなたは私の僕、わたしの父ダビデになされた約束を守り、御口をもって約束なされたことを、今日このとおり御手をもって成し遂げてくださいました。<sup>16</sup>イスラエルの神、主よ、今後もあなたの僕、父ダビデに約束なされたことを守り続けてください。あなたはこう仰せになりました。『あなたがわたしの前を歩んだように、あなたの子孫もその道を守り、わたしの律法に従って歩むなら、わたしはイスラエルの王座につく者を絶たず、わたしの前から消し去ることはない』と。

<sup>17</sup>イスラエルの神、主よ、あなたの僕ダビデになされた約束が、今後も確かに実現されますように。

<sup>18</sup>神は果たして人間と共に地上にお住まいになるでしょうか。天も、天の天も、あなたをお納めすることができません。わたしが建てたこの神殿など、なおふさわしくありません。<sup>19</sup>わが神、主よ、ただ僕の祈りと願いを顧みて、僕が御前にささげる叫びと祈りを聞き届けてください。<sup>20</sup>そして、昼も夜もこの神殿に、この所に御目を注いでください。ここはあなたが御名を置くところになった所です。この所に向かって僕がささげる祈りを聞き届けてください。<sup>21</sup>僕とあなたの民イスラエルがこの所に向かって祈り求める願いを聞き届けてください。どうかあなたのお住まいである天から耳を傾け、聞き届けて、罪を赦してください。

### 【使徒書日課】テモテへの手紙一 2章1～8節

<sup>1</sup>そこで、まず第一に勧めます。願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい。<sup>2</sup>王たちやすべての高官のためにもささげなさい。わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穏で落ち着いた生活を送るためです。<sup>3</sup>これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、喜ばれることです。<sup>4</sup>神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。<sup>5</sup>神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。<sup>6</sup>この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。これは定められた時になされた証しです。<sup>7</sup>わたしは、その証しのために宣教者また使徒として、すなわち異邦人に信仰と真理を説く教師として任命されたのです。わたしは真実を語っており、偽りは言っておりません。

<sup>8</sup>だから、わたしが望むのは、男は怒らず争わず、清い手を上げてどこでも祈ることです。

### 【福音書日課】マタイによる福音書 7章1～14節

<sup>1</sup>「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。<sup>2</sup>あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる。<sup>3</sup>あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。<sup>4</sup>兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。<sup>5</sup>偽善者よ、まず自分の目からおが屑を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除くことができる。<sup>6</sup>神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう。」

<sup>7</sup>「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。<sup>8</sup>だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。<sup>9</sup>あなたがたのだれが、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。<sup>10</sup>魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。<sup>11</sup>このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださる者にちがいない。<sup>12</sup>だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人々にしなさい。これこそ律法と預言者である。」

<sup>13</sup>「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。<sup>14</sup>しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」

## すべての人のために！

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

今日の福音書の中から、まずわたしたちの目に飛び込んでくるのは、この御言葉かもしれません。主イエスの山上の説教の中の、良く知られた御言葉の一つです。皆さんは、もしかすると幼い頃から何度も、この御言葉の説きあかしを聞いてこられたのではないかと思います。ここで主イエスが語られている言葉を素直に聴かれたならば、これ以上、説教者が何かを付け加えて語る必要を感じられないのではないとも思います。それほど、ここで語られていることは単純明瞭のように思えます。素朴に神に祈り求めること。いやむしろ、神を求めて祈ること。そのことに対して、天の父なる神は、良い物をもって必ずお答えくださるだろうと、主イエスがお約束くださっているようなのです。

わたしは、この御言葉の意味するところを、まずは遠回りしないで素直にそのまま受けとめて、あらためて心に刻み直していただいよと思います。ただ、そのように親しんできた御言葉だからこそ、今日は皆さんと、もう少し丁寧に、この御言葉の意味を聞き取りたいと思うのです。というのは、ここには、日本語の特性ゆえに訳されていない意味が含まれているからです。それを直訳すると、こうなります。「あなたがたは求めなさい。そうすれば、あなたがたに与えられるだろう。あなたがたは探しなさい。そうすれば、あなたがたは見つけるだろう。あなたがたは門をたたきなさい。そうすれば、あなたがたに開かれるだろう。」

ここにはすべて、「あなたがた」という二人称複数の意味が含まれています。実はここだけでなく、わたしたちが数週間にわたって続けて聞いてきた「山上の説教」の教えのほとんどが、「あなたがたは」という二人称複数に対する教えとして語られていました。例外は、施し、祈り、断食に関連する教えの箇所だけで、そこでは「あなた」という二人称単数に対する教えとして語られていましたが、その中でも祈りに関する教えは、「あなた」への教えにとどまらず、「あなたがた」への教えとして、あの「主の祈り」(6:9~13)が教えられていたのです。

「あなたがた」と「あなた」。大した違いではないと思われる方もいらっしゃるかもしれません。「あなたがた」というのは、「あなた」を束ねた集合体にすぎない、「あなたがた」と言っているのも実は「あなた」に対して言っているのだ、というわけです。学者の中にも、両者の区別を不要と考える人はいます。けれども、わたしは、これを主イエスの御言葉として聞く限り、いい加減に混同してよいとは思えません。福音書記者も、主の御言葉を、いい加減な区別で伝えているとは思えません。主は、このとき、書斎で本を執筆していたわけではないのです。お選びになられた弟子たちと、集まってきた大勢の人々とを前にして、互いの息遣いを感じ合いながらそこにいる人々に対して、お語りになられていたのです。

そうとすれば、主イエスはこのとき、「あなた」ではなく、「あなたがた」に、何を求めるようにとおっしゃられているのでしょうか。「あなたがた」は、何を探し、どこの門をたたくようにと、おっしゃられているのでしょうか。

## 裁くのではなく、求める！

今日の福音書の御言葉の初めの部分で、主イエスは、こうおっしゃっていました。「(あなたがたは)人を裁くな。あなたがたも裁かれないためである」。

主イエスが、そうお教えくださっているのは、わたしたち各自が日常を上手に生きていくためでしょうか。これを処世訓の一つとして心掛けるというの、それはそれで、意味のあることかもしれません。ここ数年、政治が語られる文脈でしばしば、対立する立場への批判が、翻って自分たちのところにも向けられてしまうという事象を皮肉って、新聞やテレビなどでは「ブーメラン」というような言い方がしきりにされていましたが、そういうことは、わたしたちの身近でも、わたしたち自身のこととしても、しばしば起こるものです。正義感に燃えて人を批判してみたら、実は自分自身がその批判に耐えられないような者であったと、わたしたちは、なかなかあらかじめ気づけないのです。だからこそ、主イエスもまた念を押すように、「人を裁くな」とお教えくださった、ということもあるのかもしれない。

けれども、主イエスがここでお語りくださっていることは、ただ、わたしたちが「ブーメラン」で恥をかかないための心掛け、なのでしょうか。わたしたちが自己保身するために、知恵をくださったということなのでしょうか。むしろ、主イエスはここで、わたしたちの、他の人を放っておけない気持ちをこそ、お考えくださっているのではないかと、わたしには思えるのです。

わたしたちは、兄弟の目の中にあるおが屑が、気になるのです。家族や、友人の目の中におが屑が入ってしまっていて苦しんでいれば、どうにかしてあげたいと思うのです。目の中のおが屑というのは一つのたとえですが、隣人が何かで苦しんでいる、上手くできずに悩んでいる、と気づけば、どうにかしてあげたい、助けてあげたいと思う。それは、何も自分の味方になってくれる相手だけではないと思います。自分に敵対してくる相手に対してさえ、ときには、わたしたちは冷静に相手を見て、「ああ、わたしに敵対してくるこの人は、こんな悩みがあって、わたしに攻撃してくるんだ。こんな苦しみを抱えていて、わたしに当たってくるんだ。どうにかしてあげられないだろうか」と考えることがある。

ところが、わたしたちは、そう思いながら、なかなか上手く、おが屑を取ってあげることはできないのです。親切のつもりで手を出したり、助言をしたつもりが、かえって相手を傷つけてしまったり、怒らせてしまったりすることがある。

たとえば、皆さんの中にはご家族が信仰を持ってほしいと切に願っていらっしゃる方が少なくないと思います。未信者である夫の、妻の、子らの信仰が導かれるようにと願っている。あるいは、かつて信仰に生きられた夫、妻、子らが、今は教会から離れてしまっていること、日々の生き方を信仰に基づいて整えることができなくなってしまっていることを、心痛めながら過ごしている。そういうご家族を、どうやって教会に誘おうか。どうやって信仰に導こうか。迂闊に教会に誘っても、つれなく断られてしまったりする。信仰の話をして、「あなたの生活を見ていると…」などと言われて、二の句を継げなくなってしまふ。

たとえそうであっても、わたしたちは、どうにかして、その目の中にあるおが屑を取り除いてあげたいと思う。目の中のおが屑が取れれば、はっきりと見えるようになるはずだからです。救いが見えるようになるはずだからです。救いの道、命の道が、見えるようになるはずだからです。命の道を備えてくださっているお方、天の父が、見えるようになるはずだからです。

わたしたちが本当に隣人に求めていることは、何でしょうか。祈る人になってくれることではないでしょうか。わたしたちは、共に神の御前に立ち祈る人として、隣人を求め、探し、その心の門をたたき、のではないのでしょうか。だからこそ、家族のため、隣人のため、そしてパウロが勧めているように権力者たちのためにさえ、祈るのではないのでしょうか。

主イエスに導かれて神の御前に集うようにされるとき、わたしたちは、いつしか、そのように隣人を思い、隣人を求めるようにされていくのです。初めからそうではないとしても、そのような思いを抱く者とされていくのです。主イエスが、そのような思いをお持ちのお方だからです。それが、天の御父の御心だからです。

### **天の父の命に通じる門へ！**

家族や隣人を思って、わたしたちは、「あなたも祈る人になってほしいから…」と小さな声で言うのです。ただ、わたしたちは、そのために、その人の目を曇らせているおが屑を取り除いてあげることさえ、上手くできない。わたしたち自身の目が、まだ曇っているからです。おが屑どころか、大きな丸太が、わたしたちの目を曇らせている。その丸太を取り除かなければ、決して、愛する人のおが屑を取り除くための手助けなど、できない。

皆さんは、ご自分の目の中にあるのは、せいぜいおが屑であって、大きな丸太など入っていないと、お思いですか。そうお思いになられても、良いと思う。大事なことは、そうして下さったお方がいらっしゃる、ということをおきまえることです。このわたしの目の中の丸太を取り除いて下さったお方がいらっしゃる。丸太を取り除いてくださいとの願い求めにお応えくださったお方がいらっしゃる。そのお方こそ、わたしの愛するあの人、この人の目の中のおが屑を、いい丸太を、取り除いてくださるお方なのです。

今でも、わたしたちは、「あなたの目からおが屑を取らせてください」とは、自信をもって言うことができない者でしょう。それでも、主イエスは、「兄弟を求めなさい」とおっしゃられる。「祈りの友を探しなさい」、「隣人の心の門をたたきなさい」とおっしゃられる。神の御前に共に生きる隣人を本当に得るために、家族や友のために、敵のために、「求め、探し、門をたたきなさい」とおっしゃられる。天の父は、求める者に必ず良い物をくださるお方だからです。

「あの人も祈りの交わりに加わってほしい」。神が、すべての人のためにそう願ってくださっているのです。「あなた」が一人のままでなく、「あなたがた」と呼ばれる交わりを造り上げていくことを、願ってくださっているのです。それは「隣人」という狭い門を通ることです。しかし、それが命に通じる門なのです。